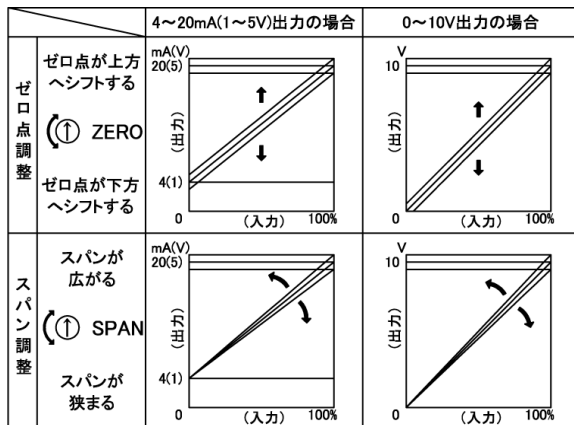


5. ゼロ及びスパン調整方法

本器は出荷時に校正済みですから、ご注文時の仕様通りにご使用になる限りでは、ゼロ(ZERO)及びスパン(SPAN)の各トリマを操作する必要はありません。接続機器との整合をとる場合、又は定期校正時に必要により、下記の要領で調整してください。

ただし、調整の場合は、本器許容差の10倍以上の確度を有する信号源(標準電圧、電流発生器など)及び、測定器(電圧計、電流計)を使用し、電源投入後30分以上経過してから行ってください。ゼロとスパンの調整範囲は、約 $\pm 20\%fs$ となっており、多回転トリマが実装されています。

- 1) ゼロ調整: 入力端子に入力範囲の最小値を入力し、この時の出力信号が出力範囲の最小値になる様にゼロトリマを回して合わせてください。
- 2) スパン調整: 入力端子に入力範囲の最大値を入力し、この時の出力信号が出力範囲の最大値になる様にスパントリマを回して合わせてください。



6. 範囲外条件に対する動作

1) 過大入力

入力範囲の上限を上回る信号が入力された場合、出力信号は約120%fsまで入力にほぼ比例して増加しますが、それ以上の過大信号が入力されても、増加することはありません。

2) 過小入力

入力範囲の下限を下回る信号が入力された場合、出力信号は約-20%fsまで入力にほぼ比例して減少しますが、それ以上の過小信号が入力されても、減少することはありません。

3) 範囲外負荷

- ① 電流出力の場合、「許容負荷抵抗範囲」を上回ると、出力端子間の電圧が約15Vになるまでの範囲では、入力にほぼ比例した出力が得られますが、それ以上になりますと、出力が飽和し誤差が大きくなります。

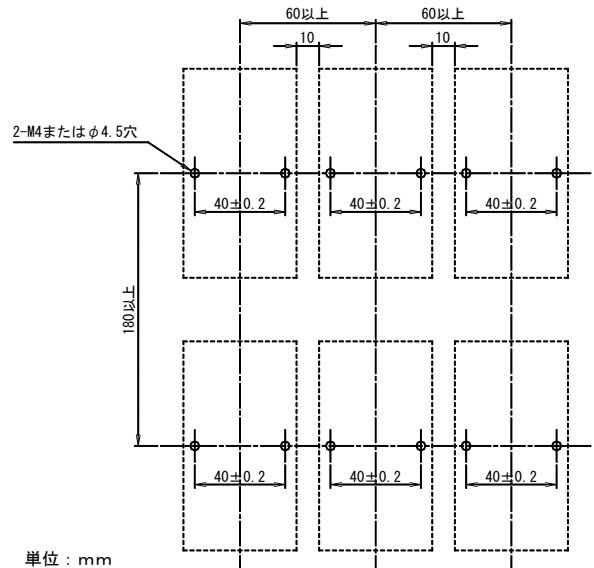
※ 20mAfsを超える出力仕様の場合、出力端子間の電圧範囲は約10Vまでになります。

- ② 電圧出力の場合、「許容負荷抵抗範囲」を下回ると、出力は飽和し誤差が大きくなります。

7. 取付方法

壁面取付の場合、下図をご参考ください。

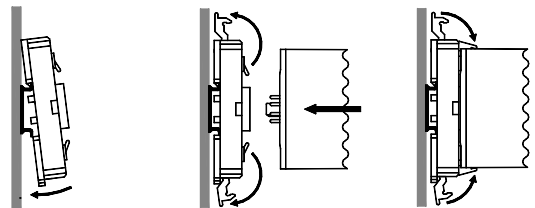
周囲温度の上昇を防ぐため、下図のように間隔を空けて取り付けてください。



8. DINレールとの着脱方法

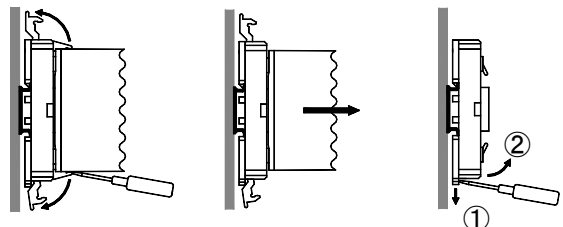
●DINレールへの取付方法

- ①ソケットの表面の文字が正しく読める方向に取り付けてください。底面上部の爪をレールに引っかけて矢印の方向に軽く押し込んでください。
- ②フックを外側に広げてから本体をまっすぐソケットに差し込んでください。
- ③フックをかけて固定してください。



●取り外し方法

- ①両側のフックを外してください。
- ②本体をまっすぐに引き抜いてください。
- ③ソケットを外すにはスライダの溝にドライバを差し込んで、矢印の方向に引きながらソケットの下部を手前に引いて外してください。



9. 保証について

本器の保証期間は納入後1年です。この期間内に通常の使用条件下で故障が発生した場合は、弊社またはお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

弊社に引き取って無償にて修理を行うか、新品と交換させていただきます。なお、分解・改造及び通常でない状態でのご使用に対する責任はご容赦いただきます。

また、本製品に起因して生じた損害に関しては、当社はいかなる場合も責任を負いません。